



養護教諭の専門性を生かした不登校への対応

■ 養護教諭が果たす役割

- 児童生徒の中には、対人関係からくるストレスや、言葉にできない悩みや不安が心に入り、それが身体症状（頭痛・腹痛）になって現れ、保健室を訪れる場合が少なくない。このように養護教諭はその職務の特質から心身の健康問題を発見しやすい立場にある。身体症状の訴えがあった時には健康観察の結果や保健室の利用状況などと合わせて、情報収集し、その情報を整理してその子の身体症状の訴えの背景にある問題を分析し、対応することが大切になる。そのような観点から、養護教諭の行う健康相談が生徒指導上の諸問題や不登校の未然防止に果たす役割は大きいと言える。

■ 養護教諭の不登校への対応

- 養護教諭が保健室等での関わりの中で不登校傾向にある児童生徒に気づき、校内組織に情報を発信し共有することにより、組織としての役割分担や援助計画が明確となり、学校全体の取組が一層効果的に推進されることが期待できる。

◆ 養護教諭の不登校への対応

- ① 不登校の背景の理解
不登校には様々な要因があり、精神疾患や発達障害など医学的要因が関与しているなど様々なケースがあることも念頭に置き、多方面から情報収集し、その理解に努める。
- ② 医療機関等との連携
不登校の背景に何らかの疾患や障がいがあると考えられる場合は、受診の必要性の判断や地域の関係機関との連携等において、専門的な観点からコーディネーター的役割が求められる。
- ③ 保護者との面談
保護者への働きかけは、追い詰めることなく不安や悩みを受け止めることを心がけ、気軽に相談できるようにする。保護者が相談しやすい教職員として養護教諭やSCなどを窓口にすることも有効である。また、面談や家庭訪問に養護教諭も同行するかなどについては、本人の状態、年齢、性別、家族の状況等を考慮して判断する。

■ 養護教諭の保健室登校への対応

- 保健室等での働きかけは、児童生徒が不登校状態となる前の段階においても、また、別室登校の居場所として不登校児童生徒の学校復帰のきっかけとなるなど、その果たす役割は大きい。

◆ 養護教諭の保健室登校への対応

- 保健室登校は一部の教員とコミュニケーションは取れるが、クラスで過ごすことが困難な場合や、不登校状態から再登校を目指す場合などのケースがある。
- ① 保健室登校実施に当たっての確認事項
 - ・ 本人が保健室登校を望んでいるか。
 - ・ 保護者が保健室登校を理解しており、協力が得られるか。
 - ・ 全教職員の共通理解及び協力が得られるか。
 - ・ 保健室登校に対応できる校内体制が整っているか。
 - ② 指導のポイント
 - ・ 保健室にいることで安心感が得られるようにするとともに、初期には児童生徒との信頼関係を深めるようにする。
 - ・ 援助計画を立て、保健室登校を学級担任と養護教諭だけに任せることなく、全教職員が学校体制の中で取り組んでいく問題であるという共通認識を持ち、役割分担を行って対応に当たるようにする。
 - ・ 児童生徒の様子を見ながら、できそうなことを試みるとともに、情緒が安定してきたら、担任と相談して学級へ戻すタイミングを見計らう。

■ コーディネーターとしての役割

- 養護教諭は、専門的な観点から、健康相談の必要性の判断、受診の必要性の判断、地域の関係機関等との連携におけるコーディネーターとしての役割なども求められていることから、**不登校対応のコーディネーターとしての役割**を担うことも可能である。その場合、管理職も含めた全教職員の共通理解と校内のサポート体制づくりがしっかりできているなどの配慮が必要である。